

# 銀行振込データ作成処理の システム化について

天童市民病院事務局  
赤塚 忠広

# 業務改善の対象について

- 当院では、取引先への支払いは口座振替で行っており、振込の手続きは銀行取引の専用端末を使用している。以前は、振込に必要なデータ(銀行振込データ)を、エクセルファイルを使用して作成していた。今回の改善は、この銀行振込データの作成作業が対象である。

### 振込FD作成

1. 出力先、依頼人情報のシートを開き、設定情報を確認します。
2. 入力元となる振込金額入力表Excelシートの格納場所を指定します。
3. 振込日を入力後、作成ボタンをクリックし、振込データをFDへ作成します。
4. 作成した振込データの明細表を印刷する場合は、下の明細印刷ボタンをクリックします。
5. 処理が終了したら下の終了ボタンをクリックします。

## システム化以前の状況

- 以前から財務会計システムを利用していたが、銀行振込データの出力が出来なかった。そのため、手作業で振込先ごとに集計・エクセル入力を行い、銀行振込データの作成を行っていた。

「取引先ごとの請求書⇒手作業で集計⇒  
エクセル入力⇒銀行振込データ作成⇒確認」

対象伝票枚数：1,237枚（平成24年度）

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		振込金額入力表					
3							
4		*預金種目 1 普通 2 当座 9-その他					
5	振込先	銀行コード (4桁)	支店コード (3桁)	預金種目 (1桁)	口座番号 (7桁以内)	口座名義 (加30文字以内)	
6	天童市民病院 天童 太郎	0122	455	1	000001	テンドウミンビョウイン	1,000,000

# 以前までの問題点

- 銀行振込データを作成するための集計・入力作業に、3日間程度を要しており、大きな負担になっていた。
- 銀行振込データを作成するために、振込先ごとに集計作業を行っており、作業が煩雑であった。
- 銀行振込データの作成は、入力者と点検者を別にしてはいたが、財務会計システムと2重管理になっていたため、集計や入力などの作業ミスの可能性が高まっていた。

# 財務会計システムのデータを利用できないか？

- 既存の財務会計システムの標準機能ではないため、財務会計システムへの入力データから、銀行振込データを作成できるのかが不明である。  
⇒財務会計システムを調査した結果、データ作成に必要な項目がそろっている事がわかった。
- 財務会計システムからデータを作成した場合、手作業の場合と同じデータを作成できるのか。  
⇒実際にツールを作成し、テストを行った。過去半年分の振込データと比較した結果、同じデータを作成することが出来た。

## システム化以降の処理方法

- 独自のツールを用いて、銀行振込データを財務会計システムから直接作成するようにした。  
「財務会計システム⇒銀行振込データ作成⇒確認」

銀行振込データ作成 : フォーム

処理対象とする振込日を入力後、  
「銀行振込データ出力」  
ボタンをクリックし、データを作成します。

振込日:

銀行振込データ出力

Access終了

レコード:  / 1

# システム化のメリット

- 財務会計システムから直接データを作成するため、手作業での集計・入力作業が不要になった。また、2重管理の必要がなく、データの正確性が高まった。
- これまで3日間程度を要していたデータ作成作業が、ツールの使用により1分程度で処理が終わるようになったため、大幅な省力化が実現できた。